

平成 28 年高連協 賀詞交歓会 活動報告

高齢社会 NGO 連携協議会（高連協） 平成 28（2016）年「賀詞交歓会」

日時：2016 年 1 月 12 日（火）午後 3～5 時

会場：銀座ライオンビル 6 階「クラシックホール」（銀座 7 丁目）

吉田成良専務理事の報告

司会：時間も押しつまってまいりましたので、このへんで今後の高連協を含めて、どう
いうふうな活動を考えておられるのか、吉田専務からうかがおうと思います。

吉田成良専務理事

いいお話をたくさんいただいて、わたくしのたわごとみたいな話を聞いていただきます
が、高連協はやることがいっぱいある。ありすぎてパンク寸前の状況というのが高連
協の実態です。

「団塊の世代」が 5 年ほど前からわれわれの仲間入りをしてきたわけですが、この人た
ちは今の社会の経済状況があまりに悪いのか、やはりボランティアというよりも、もう
ちょっとインセンティブとして収入のあるしごとをしたい、せざるをえないという方々が
非常に多いように、われわれ高連協の役員をやっている人たちからは聞かされておりま
すし、わたしも感じております。

一方、世の中のほうは「一億総活躍社会」とかっていますが、一億というのは年配
の方にはあまりいい響きはありません。2060 年ですか、人口が一億人になる。いま
のような生み方生まれ方で、そして死ぬ人がこれから 30 年、40 年ほどは増える一方
でございます。死亡率が上がる、出生率は見込めない。当然、日本は人口減少時代には
いっております。これは急には避けられないと思います。ただ出生率はもうちょっと上
がってもいいんじゃないか。

このあいだ、わたしはちょっと田舎のほうでおしゃべりをしました。相手は「団塊の
世代」以上の高齢者でございました。この人たちがいまいちばん気にしているのは次世
代のこと、息子のこと娘のことなんです。娘、息子が一人でいる、相手がない、とい
う時代になっている。わたしはその時にちょっといいました。わたし自身もそうであっ
たように、自分は恋愛結婚をしたつもりなんです、実は先輩の紹介で彼女を紹介され
て、半年くらいお付き合いした。そういうことでございまして、実は昔のおとなは若い
者の世話を結構やっていた。ところがいまのわれわれはどうなのか。息子、娘は勝手に
好きな相手がいて一緒になればいいのかというのが、いまの社会の一般ではない
でしょうか、という話をしました。ほとんどの人がそうなので、息子、娘にも人権があ
るからとか妙なことをいっていました。それよりも何よりも、次世代のことをほんとう
に心配しているのだろうか。こんな社会にしたのはだれの責任だということになれば、

結局は高齢者の責任でもあるというお話をさせてもらったのですが、そんな時代です。

それから東京の区も含めて、江戸川あたりはやる必要ないと思いますが、「地域消滅」ということが自治体の関係者または自治体の自治会長さんなどには非常に大きな刺激になっている。なんとか消滅しないためには、出生率をあげるか、若い人がきてしごとをもって働いてもらうか、ふたつしかない。若い人がしごとをもって働いてくれば出生率はおのずと上がるでしょう。社会的環境をみた場合に、まあ安倍さんという人を最近は見直しているのですけれど、頭がいいと思います。「女性活躍社会」、まあ北欧では30年も前にできていた話なんですけれど、遅ればせながらやるということで、ここ2年ほど「地域創生」というようなことでやっておられますけれど、いま地方でやっていることは出生率を上げること。そこで高齢者は何ができるのか。地域社会というのは高齢者ばかりなんです。わたしも含めて土日に行き交うのは高齢者ばかり、普通の日もそうですが。そういう時代になっているわけです。

堀田さんのお話ではないけれど、高齢者がいま何らかの社会的な活動をやらないでどうするんですか、時代また社会がそれを問うているんだと思います。だから漫然とわれわれ高齢者、とくに高連協は過ごすことができない時代にはいっちゃったのだと思っております。

そんななかで高連協は、80代の人がいれば、きのうきょう高齢者になったばかりの新参の人がいる。この人たちは考えることが違います。これは当然だと思います。人生が違う、ばらばらになって広がっている高齢者のニーズがどのへんにあるのか。

高連協こそが、このへんの世代の人はこんなことを考えている、いちばん望んでいるのはこういうことです、ということを世に知らしめていく。ことしも参議院選挙もありますし、その前に高連協が大々的に調査をして、高齢者自身が何を求めているのか。高連協の調査というのは退職高齢者が中心ですが、この人たちは最近自信を失っている。中産階級から落ちこぼれつつある。そのへんのところをきちんと調査して、80代以上の人はどう考えているのかとか、70代はこんなことを望んでいるのかとか、60代の「団塊の世代」の人は社会環境としてこんなことをほしいと思っているということを、ある程度の数字をいただいてまとめていくのが、いま高連協が求められている目先のしごとかなと思っております。

よけいなことをだいぶ申しあげましたが、いま悩んでいることなものですので、高連協の実情でもあると思っておりますので、樋口先生またよろしく願いいたします。

(文責 堀内正範)

計報: 高齢社会 NGO 連携協議会専務理事、一般社団法人エイジング総合研究センター代表理事 吉田成良殿は、2016 年 1 月 21 日(木)午後 7 時 29 分に、虚血性心不全により享年 80 歳にて永眠されました。(高連協事務局より通知)